

助産師出向モデル事業の実施状況報告(筑豊地区)

|            |  |
|------------|--|
| 出向元医療機関の分類 | 病院   |
| 出向先医療機関の分類 | 診療所  |
| 出向助産師      | 助産師歴 9年、分娩介助経験 101件  |
| 出向期間       | 2週間(令和6年3月4日から令和6年3月15日)<br>※勤務帯:日勤  |
| 出向者の目標     | 正常分娩の介助経験など助産実践能力強化<br>他施設の助産ケアの実践を学ぶ<br>地域医療との連携強化  |
| 主な業務内容     | 授乳介助、妊婦モニター管理、褥婦・新生児のバイタルサイン測定、新生児ミルク哺乳<br>分娩介助 3件(促進分娩、吸引・クリステレル分娩、自然分娩)  |
| 気づき・学び     | 分娩経過に異常がなく、分娩後出血が少ない等の正常な経過の場合、その後の育児がスムーズに出来ていると感じた。<br>分娩入院した際には、担当助産師だけでなく、スタッフ全員が声を頻回にかけたり産後も労いの声かけを頻繁に行っていた。そのため、産婦・褥婦は関心をもってもらっていると感じ、バーズレビューでも分娩に対して良い印象が多かったと感じた。  |
| 今後取り組みたいこと | ハイリスク分娩が多く、ローリスクでの分娩促進・分娩介助を経験できることが少ない。<br>また、分娩教育を受けているスタッフも多く、一人あたりの分娩介助につける件数も減少している。その為、分娩介助することに極度の恐怖があったり、経験が少ないため助産診断や判断に自信がもてず、分娩の主体は母親や児であるということに意識がいきづらい現状がある。今回のローリスク分娩介助経験を他スタッフへも共用し、分娩教育でもそういった経験を後輩に伝え、他スタッフの助産実践能力強化に向けた取り組みを行っていきたい。 |
| 成果         | 分娩指導に入ることが多く、主体的に分娩介助に入ることが10例/年ほどである。その中で、2週間で3例の分娩介助につかせていただいたことでスキルアップに繋がった。<br>ハイリスク分娩が多いからこそ、産後のバーズレビュー等を通して、育児に自信や楽しみが持てるような関わりをしていき、他スタッフへも伝えていく。   |